

令和6年度 第1回美瑛町ゼロカーボン推進協議会議事録

日時：令和6年7月30日（火）

午後1時30分から午後3時30分

場所：役場4階委員会室

・出席者

会長及び副会長：角和 浩幸（会長）、笹本 幹也（副会長）

委員：千葉 一夫、川上 敦、西海 博之、津幡 嘉人、原 直子

アドバイザー：日谷 知章、鈴木 亨、島田 真吾、長谷川 一也

事務局：まちづくり推進課 観音課長、大庭室長、大畑係長

室蘭工業大学 MONO づくり振興機構 吉成副機構長

1 開 会

・委嘱状交付

2 挨拶 角和町長

3 出席者及び役員紹介

4 再エネ導入目標策定の内容について

説明員：室蘭工業大学 MONO づくり振興機構 吉成副機構長

資料3の令和5年度策定の再エネ導入目標について説明

質疑応答：なし

5 事業内容及びスケジュール説明

説明員：まちづくり推進課地域みらい創造室 大庭室長

資料4の事業内容及びスケジュールについて説明

質疑応答：なし

6 協 議

(1) 美瑛町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の素案について

説明員：まちづくり推進課地域みらい創造室 大畑係長

資料5の美瑛町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案について説明

質疑応答：なし

(2) 実行計画における具体的な事業について

説明員：まちづくり推進課地域みらい創造室 大畑係長

別紙資料をもとに説明

質疑応答：下記のとおり

(委 員) 具体的な事業のなかに薪ストーブの導入とあるが、これは化石燃料のストーブから薪ストーブへの転換を図っていく認識でよろしいか。

(事務局) 令和6年度から薪ストーブの設置費用に対する補助事業を実施しています。現在3件の申請状況となっております。薪ストーブはCO2排出が実質ゼロと見なされるため、導入を推進していきたく考える。

(委 員) 多くの家庭が薪ストーブの導入した場合、燃料（薪）の供給が難しくなる可能性があると考えます。

(事務局) すべての家庭が薪ストーブを導入すると薪が不足する可能性があることを認識している。薪ストーブ導入を希望する家庭への補助事業は継続するが、町全体での導入を推進するわけではない。

(委 員) ゼロカーボンを実現するためには、町民の意識醸成が不可欠であると考えており、明確な目標設定が必要であるため誰にでもわかるような目標設定をしたほうがよいと考える。また、太陽光発電はゼロカーボンの達成に不可欠な施策であると思うが、耐用年数後の廃棄問題も考慮すべきである。例えば、廃棄する事業所の選定や廃棄費用の積み立てなどの施策。

生ゴミ処理機の補助だけでなく、家庭の生ゴミ削減を促す取り組みも必要と思っている。

灯油ストーブの灯油使用量削減も提案。例えば、冬でも長袖を着るような意識改革が必要

(事務局) 昨年、食品ロスや再エネに関するセミナーを開催し、省エネの重要性を町民に啓発。

広報紙で毎月「ゼロカーボンアクション」を掲載し、町民に理解を求めている。

生ゴミ処理機の補助利用者は3件で、生ゴミの削減に成功した例がある。

太陽光発電設備の廃棄問題についても、補助事業の中で報告体制を整備する取り組みを検討する。

(委員) ゼロカーボンパークの取り組みについて教えてもらいたい

(事務局) 環境省に申請し、国立公園エリアがゼロカーボンパークとして登録されました。これにより、エリア全体をゼロカーボンに配慮したまちづくりを目指しています。

具体的な取り組みとしては、観光客が多いため、ゴミの分別を徹底し、町内で処理されるゴミに関するCO₂の削減を図ります。また、観光客や町民が電気自動車を利用できるよう、急速充電設備を整備します。将来的には、施設全体が再生可能エネルギーを使用する仕組みを構築することを目指しています。

これらの大きな目標に向けて、まずは小さな取り組みから始めます。住民や観光客にゼロカーボンの意識を持ってもらい、消費行動の変容を促します。段階的に大きな目標に進むための意識改革が重要と考えています。

最終目標として、施設全体が再生可能エネルギー100%を目指していますが、現状はまだ達成していません。小さな取り組みを積み重ねながら、最終的には全施設が再生可能エネルギーを使用するように進めていきます。

(委員) 計画に記載されている観光シーズンにおけるにおい問題の表現について訂正してもらおうよう検討してもらいたい。においが原因で観光客が減少するようなことはないため。

もう一つは、「e-bike などへの推進」とありますが、e-bike の推進については違和感があります。自転車は燃料を使わず、自分の足で漕

ぐものです。それにエネルギーを使うモーターをつけることがゼロカーボンに寄与するとは思えません。むしろ、自転車をもっと活用することで健康維持にもなります。既存の自転車を e-bike に置き換えるのは逆方向です。

高価な e-bike を導入するより、自転車を日常生活に取り入れるべきです。私は町の自転車活用推進会議の座長をしていますが、職員に「月に 1 回でも自転車で通勤しよう」と言っても反応は良くありませんでした。その意識を変えることが重要です。

役場も率先して自転車を活用し、「私たちはここまでやっています」と町民に示すべきです。役場が率先することで町民も理解し、参加する流れが生まれます。自転車を推進する立場から言うと、e-bike は全然話になりません。これはぜひ再考していただきたいと思います。

(事務局) においに対する苦情が行政に届いていることは事実であります。今回提案しているバイオガスプラントの導入により、臭いの軽減が期待できます。熟成していない堆肥よりも、バイオガスプラントで処理した後の消化液を使用する方が臭いが少ないことが確認されています。これは観光の対策というよりも、臭いの問題に対する具体的な対策の一つとして提案しています。

この提案により、観光業者や町民との軋轢を生み出すことが目的ではありません。私たちの書き方が悪かった点については反省していますが、臭いの問題に対処するための一つの提案としてご理解いただければと思います。

オーバーツーリズムの問題とは直接関係はありませんが、確かに自転車が最もエコであることは認識しています。かつて、自転車で巡る時代もありましたが、坂道などの問題から、電動自転車の普及が進み、今ではそれによって観光を楽しむ人も増えています。ガソリン車で観光と比べれば、少しはエコであると考えられます。このような視点で、徐々にゼロカーボンに向けて進展していくことを理解していただければと思います。

7 意見交換

(委員) 自分の畑の中に作物が作れない急勾配の場所があります。おおよそ1000坪くらいで、西日が非常に当たる場所です。この場所に太陽光発電を設置したいと考えています。

皆さんもご存じの通り、その土地を提供して、太陽光発電事業を進めることができる事業者がいくつかあります。

そこで実際にそういった事業者と組んで進めようかと考えていましたが、ふと「何も他の事業者に頼む必要はないのでは？」と思いました。美瑛町内にそういった事業者があるなら、美瑛町と組んで太陽光発電事業を進められるのではないのでしょうか。現状ではまだないので、作ればいいのではないかと考え、ここに来ました。

例えば、美瑛町新電力協同組合のような形で、町民一人ひとりが参加できるようにし、美瑛町に合った新電力のあり方を模索すべきです。大企業が行うようなメガソーラーや大型風車は美瑛町には適していません。資料にあったように、小規模な小水力発電や、小さな風車をたくさん建てるといった考えもあります。

私のように土地を持っていて太陽光発電に興味がある人も、技術的なことやお金のことが分からず、誰に相談すれば良いか分かりません。そういったことを受け皿にしてくれる事業者をぜひ作っていただきたいと考えています。

(事務局) 計画には、昨年の再エネに関する説明も含まれています。現在も再生可能エネルギーとして、水力発電や太陽光発電などさまざまな取り組みが行われていますが、地域内でのCO2削減に直接つながっていないという課題があることに気づきました。このため、地域新電力会社を設立し、地域にエネルギーを供給できるようにすることが必要だと考え、昨年度の導入目標に挙げました。

今後の計画では、例えば、資源の分野でのバイオガス発電や小水力発電についても触れています。既存の発電設備が町内にあるにも関わらず、十分に活用されていない現状があるため、その課題を整理し、計画に組み込んでいく考えです。

アドバイザーからもご意見をいただければと思います。

(アドバイザー) エネルギーの取り組みは、単なる経済活動ではなく、まちづくりの一環であると考えています。今日の議論の中で、エネルギー会社の設立がまちづくりにも貢献するという点に共感しました。新電力の設立が、まちづくりと密接に関連していると思います。

エネルギーはまちづくりの重要な要素であり、地域の事業者が中心となる方法が理想です。これにより、地域のニーズに応じたエネルギー供給が可能になります。また、町やJAなどの団体からの出資も考えられます。過去の経験から、地域主体の取り組みが大きな意義を持つと信じています。

(委員) 新たにエネルギー導入計画を進める中で、森林の吸収量の重要性を感じています。エネルギーをコンパクト化しつつ、町内の若者が将来も住み続けられるような計画が求められています。例えば、美瑛町を訪れる観光客に苗木を購入してもらうなど、地域にランドマークを作る提案もあります。これにより、地域への協力を促すことができます。

また、ペーパーレスを進める意向がありますが、環境に優しい紙製品やティッシュペーパーの提供するようなまちづくりもよいかと思います。また、チップを製造するにも電気を使用するので、エネルギーの利用も効果的に行っていきたいと考えています。

(事務局) 本町では、森林組合の努力によって森林が管理され吸収量が多いことに感謝しています。この吸収量を活用し、美瑛町のゼロカーボンの方向に進むことが最善だと思います。また、公共施設の排出量削減についても職員全員で一丸となって取り組んでいくつもりです。苗木の提案などもとてもいいと思います。

(委員) アマゾンの森林で CO₂ が排出される現象を報告しています。高温の気候が影響し、植物層が変わっている可能性があるとのこと。これからは単に植物が二酸化炭素を吸収するというだけではなく、その実態をしっかりと把握しなければならないと感じています。過去に旭川市での再生可能エネルギーセミナーに参加しましたが、

そこでも原発問題と同様に、良いことだけを強調する説明が多かったように思います。日本では 1990 年代までは太陽光発電が世界一でしたが、現在は中国に追い越され、海外での生産が増えています。特に化学物質の使用については、透明性が欠けている問題があります。

また、太陽光パネルの設置に関しても、発電量が過剰になるとカットされることがあるなど、現実的な問題が多く存在します。蓄電設備の導入が重要で、発電だけでなく、その後の蓄電と供給の方法も考える必要があります。

ゼロカーボンの推進は重要ですが、負の側面も公開し、町民の理解を得ながら進めていくことが大切です。過去の経験を踏まえ、エネルギーの選択について慎重に考え、二酸化炭素の抑制に取り組むべきだと考えています。

8 その他

- ・ 今回の意見をもとに計画を修正し、各種委員会に提案する。
- ・ 各委員の機関で取り組まれている（予定含む）再エネ関連の事業がありましたら事務局に連絡をお願いしたい。

その都度、委員の皆様には計画について確認を依頼させていただく（メール等）。

- ・ 次回の開催は 1 2 月を予定

9 閉 会